note株式会社
2026年11月5日

note、韓国語の自動翻訳を有料記事にも拡大
日本語で書いた有料記事が、韓国の読者にも届けられるように



noteは本日から、韓国語への自動翻訳を、記事単位で販売されている有料記事にも拡大します。これまでの無料記事に加え、日本語で書かれた有料記事も、韓国の読者に届けられるようになります。

noteでは、2026年5月から英語、8月から韓国語への自動翻訳を提供しています。9月からは、韓国の大手検索サービス「NAVER」の生成AI検索「AI Briefing」にも、韓国語に翻訳されたnoteの記事が回答の引用元として表示されています。

2026年9月23日～10月20日の4週間では、翻訳された記事がアメリカに次いで多く読まれた国は韓国でした（※1）。今後も、日本語で書かれた記事が、言語の壁を越えてより多くの読者に届く機会を広げていきます。

（※1）自動翻訳された記事へのアクセスを国・地域別に集計したものです。

NAVERの生成AI検索、2週間で100万回以上表示

「NAVER」の生成AI検索「AI Briefing」では、日本の旅行先やお土産、ゲーム、アニメやマンガなどに関する検索を対象に、noteの記事を引用しています。

NAVERの集計によると、2026年10月5日〜18日の2週間で、AI Briefingの画面にnoteの記事が表示された回数は107万2495回でした。

こうした検索を通じて、日本のクリエイターが発信する記事が、韓国の読者との新たな接点になっています。

映画「ちいかわ」の韓国公開後、関連記事の閲覧が3倍超に

韓国では、日本での公開から約2ヶ月後の2026年9月30日に『映画ちいかわ 人魚の島のひみつ』が公開されました。

これに合わせて、翻訳された「ちいかわ」関連記事の閲覧数も増加。公開後の2週間（9月30日〜10月13日）は、その前の2週間（9月16日〜29日）と比べて閲覧数が3倍以上になりました（※2）。

日本語で書いた感想や考察が、海外で同じ作品を楽しむひとにも届くかもしれません。
noteは、そんな新しい読者との出会いを、これからも広げていきます。

（※2）タイトルに「ちいかわ」を含む記事のうち、英語・韓国語に自動翻訳されたWebページへの韓国からの閲覧数を比較（note調べ）。

多言語対応について

noteでは、日本語で書かれた記事を自動翻訳し、海外の読者に届ける多言語対応を進めています。2026年5月に英語への翻訳を開始し、8月には韓国語にも対応しました。
今回、英語に加えて韓国語の有料記事も対象となります。

対象範囲

- 対応言語：英語、韓国語
- 対象：無料記事、記事単位で販売されている有料記事
- 対象外：定期購読マガジン、メンバーシップ、有料マガジン

初期設定では自動翻訳がオンになっており、クリエイターはアカウント単位または記事ごとにオフにできます。

※自動翻訳の特性上、訳文が原文と完全に一致しない場合があります。
※対象範囲や設定方法など、くわしくはヘルプページをご確認ください。

NAVER「AI Briefing」について

「AI Briefing」は、NAVERの検索結果の上部に表示される、生成AIによる要約回答です。利用者の質問にAIがまとめて答え、参照した情報の出典もあわせて示す仕組みです。
AI Briefingでの引用は、NAVERが、公開されているnoteのページを取得し、自社の検索の仕組みに反映するものです。
noteからNAVERへ、コンテンツやデータを直接提供するものではありません。また、noteのコンテンツを生成AIモデルの学習データとして提供するものでもありません。

※本リリースのAI Briefingに関する数値は、NAVERが集計したものです（2026年10月5日〜18日の2週間）。

note

noteはクリエイターが文章や画像、音声、動画を投稿して、ユーザーがそのコンテンツを楽しんで応援できるメディアプラットフォームです。だれもが創作を楽しんで続けられるよう、安心できる雰囲気や、多様性を大切にしています。個人も法人も混ざり合って、好きなものを見つけたり、おもしろい人に出会えたりするチャンスが広がっています。2014年4月にサービスを開始し、約8993万件の作品が誕生。会員数は1313万人（2026年8月末時点）に達しています。

- URL：https://note.com/
- iOSアプリ：https://apps.apple.com/jp/app/note-noto/id906581110
- Androidアプリ：https://play.google.com/store/apps/details?id=mu.note

note株式会社

わたしたちは「だれもが創作をはじめ、続けられるようにする」をミッションに、表現と創作の仕組みづくりをしています。メディアプラットフォームnoteは、クリエイターのあらゆる創作活動を支援しています。クリエイターが思い思いのコンテンツを発表したり、メンバーシップでファンや仲間からの支援をうけたり、ストアでお店やブランドオーナーが商品を紹介したり、note proを活用して法人や団体が情報発信をしたりしています。

所在地：〒102-0083　東京都千代田区麹町6-6-2　設立日：2011年12月8日
代表取締役CEO：加藤貞顕　コーポレートサイト：https://note.jp

【本件に関するお問い合わせ先】
note株式会社　IRお問い合わせ窓口：https://ir.note.jp/inquiry